

支部だより

日本金属学会中国四国支部だより

中国四国支部 第19代支部長 佐々木 元*

日本金属学会中国四国支部は、初代支部長である故・藤原武夫広島大学名誉教授の下、1957年10月10日に設立され、今年で64周年となる。本支部は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、徳島県、愛媛県、高知県のいわゆる山陰、山陽、四国地区から構成された広範囲な地区であり、会員も各地区に広く分布している。そのため、移動は大変であり、支部活動の運営もこの距離感をどのように縮めるかが長年の課題である。また、日本金属学会のみでは母体が小さいため、日本鉄鋼協会中国四国支部とほぼ一体で運営している。更に、軽金属学会中国四国支部とも行事を共催化するなどして、共栄を図っている。現在は広島大学 松木一弘教授を25代支部長とし、各地区から選出された8名の幹事(4名の鉄鋼協会幹事を含む)とともに運営している。その他、支部役員として、支部長の補佐、支部の会務を処理する支部委員(10~20名)、支部会と支部内の各団体との連絡を担う支部地区代表(10~20名)、支部に助言・意見を行う支部顧問があり、支部の活性化のために様々な活動を担っている。支部最大の行事は、例年、日本鉄鋼協会と共同で毎年一回、夏に開催される支部講演会と3月に開催される支部総会である。支部講演会は各県の持ち回りで開催されており、今年は第61回(鉄鋼協会としては第64回)の大会として、オンライン開催ではあるが、山口東京理科大学が当番校となり、8月24日に開催された。61件の一般講演が3会場に分かれてオーラル形式で実施されたほか、本多光太郎記念講演として、富山大学の松田健二先生に「時効硬化型アルミニウム合金の時効析出研究～さらなる高強度化を目指して～」の題目で講演いただいた。コロナ禍以前は毎回60件以上の発表、100名を超える参加があったが、今回はオンライン化のためか、発表件数は若干低下した。支部講演会では毎回、学生を対象に優秀講演発表を選定して3~4件を表彰し、学生の研究の励みとしてもらっている。また、支部における研究調査活動として、材質制御研究会、金属物性研究会、若手フォーラムを、それぞれ年に3、4件程度定期的実施している(図1・2)。これらの研究会は、支部組織である研究部会が中心となって企画、運営を行っている。中でも、1960年代中頃から活動をしている金属物性研究会は金属材料の基礎的、学術的研究を対象としており、昨年末で136回の開催を数える。材質制御研究会は実用材料や材料加工プロセスの開発研究を対象としており、現在まで70回開催している。また、若手フォーラムは企業や大学の若手研究者や学



図1 第22回若手フォーラムでの本多記念講演会の様子、講師は岡山理科大学 金谷輝人教授(現名誉教授)。(2011年2月23日、於岡山国際交流センター)。(オンラインカラー)

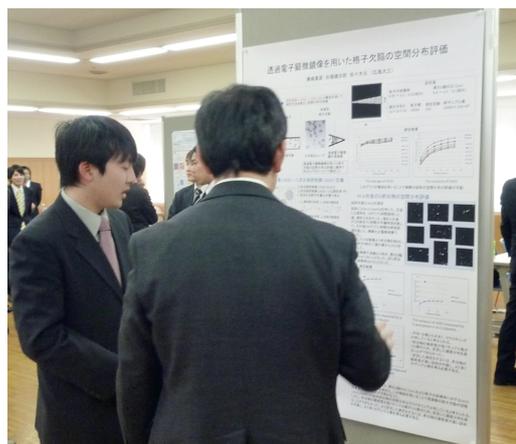


図2 第22回若手フォーラムでのポスターセッションの様子(2011年2月23日、於岡山国際交流センター)。(オンラインカラー)

生(大学院生、大学生、高専生、高校生等)の発表の機会として設定しており、現在まで47回開催している。これらの研究会は、山陰、山陽、四国地区でなるべく均等に開催されるよう配慮されている。中国四国地域では材料系学科に加え、機械系学科の大学や高専の教員、学生の活動が多く、また、鉄鋼や非鉄金属、自動車産業等の製造業も盛んであるため、学術的な視点のみならず、実用化に即した研究開発、材料加工などの実務的な研究開発が盛んに行われており、支部活動の支えとなっている。そのため、本部の活動とは少し方向性が異なると感じる。ただ、日本金属学会の発展には支部活動の活性化が重要であり、支部として常に新たな活動を展開していきたいと考えている。

* 広島大学大学院先進理工系科学研究科；教授

(2021年8月4日受理)[doi:10.2320/materia.60.662]